

【南区】平成 29 年第 2 回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	平成 29 年 6 月 26 日(月) 午前 10 時 00 分 ~ 午前 11 時 00 分
場 所	南区役所 6 階 特別会議室
出席者	<p>【座 長】 渋谷健議員</p> <p>【議 員：4 名】 遊佐大輔議員、仁田昌寿議員、荒木由美子議員、伊藤純一議員</p> <p>【南 区：24 名】 大木節裕区長、池尻恵子副区長、富田千秋福祉保健センター長、古橋正人福祉保健センター担当部長、國本直哉土木事務所長、太田孝消防署長（災害担当部長）ほか関係職員</p>
議 題	平成 29 年度個性ある区づくり推進費執行計画等について
発 言 の 要 旨	<p>【荒木 議員】</p> <p>減災での自助共助はとても大事だが、地域のマンパワー不足は否めない。人口動態などを示していくのはいいがそれに対する対案を示していかないといけないと思う。</p> <p>その一つとして中学生高校生が力にならないか。また、消防団員不足も最大課題であるので、学校と連携し、高校生をボランティアとして掘り起こす検討をしていただくことを要望しておきます。</p> <p>桜まつりのぼんぼりの点灯は商店街も喜んでいて、開花時期とずれてしまっていた。多少臨機応変に期間を伸ばせないのか。</p> <p>鶴巻橋のトイレの改修はありがたいが、他の場所も改修が必要だと思う。区から提案していただけないか。</p> <p>また、都市計画マスタープランは、ぜひ積極的に取り組んでほしいが、地域の力応援事業の情報収集提供事業とのリンクはあるのかどうか。</p> <p>【鈴木 地域振興課長】</p> <p>ぼんぼり点灯についてですが、期間延長に伴い、近隣住民への再説明や警備、レンタルトイレ等様々な課題はありますが、今後様々な観点か</p>

ら検討させていただきます。

【黒田 区政推進課長】

トイレ改修についてですが、資源循環局では、ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピックでのおもてなしとして、整備個所を選定することなので、南区としても資源循環局と調整を図っていきたいと考えております。

また、都市計画マスタープランの策定については、ご指摘ありましたように、地区別情報と連携して区民の皆様には地域の課題を実感していただけるよう工夫していきたいと考えております。

【荒木 議員】

南永田の地区懇談会で人口動態の資料を出したのは画期的だった。ぜひ連合地区単位とかでよいので、出せる情報があったら比較検討するものとして提案してもらいたい。また、消防団員が少ないというのも強調して書いていただきたい。

地域包括ケアシステムの説明があったが、スケジュールはどうなっているのか。また、経済的な困難を抱える高齢者や認知症で金銭管理ができない高齢者の対応となると、次につなげなければならないのは後見人制度だと思うが、区としてどこまでアプローチするのか。

【大谷地 高齢・障害支援課長】

秋ごろには、素案を説明させていただく機会を設けたいと思います。後見人制度を活用していくために、士業の先生達とネットワークを作り意見交換させていただいたので、今後もネットワークを活かしてご協力いただけるようやってまいります。

【荒木 議員】

団地でアンケートをしても、全然戻ってこない。介護保険制度のお知らせとかも理解されていないと思う。まして金銭管理となると、誰もができる話ではなく、民生委員さんのハードルも上がってしまうので、成年後見人のような資格がある人が入らないとダメなので、来年度以後、モデルをやることを含めて考えていただきたいが、区長のお考えはいかがか。

【大木 区長】

認知症に限らず、複雑な制度を一般の人に理解してもらうのは難しい上に、介護の制度も更に複雑になっています。地域の共助が重要である一方、民生委員さんのような共助にだけ頼ることはできないので、ケアマネージャーなど専門家と地域のボランティアとの連携が重要だと思っています。また、包括ケアシステムの指針を作る中では、色々な委員さん、ケアマネージャーさんや民生委員に入ってください、一緒に話し合ってくださいことを大事にしています。そこで出てくる課題を認識しながら次の一步はないのかとか、場合によっては、局に対しては、全体のシステムに反映してもらえないかについては、その議論をベースにしながらかお伝えしたいと思っています。

【伊藤 議員】

寿東部の地区懇談会でも外国人急増問題が話題になった。外国人向けの周知のうち、外国語防災マップ、特定健診勧奨チラシは、どれぐらい作成、配布し、言語の内訳はどうなっているのか。また、特定健診勧奨チラシについては南区独自のものなのか。

多文化共生推進事業などでは、教育委員会や国際局と連携して色々やっていたいているのは、ありがたい。

【野坂 総務課長】

外国語防災マップは、英語、中国語、韓国語を各 1,000 部作成することを予定しており、フィリピンやベトナムの人には英語でカバーできるのではないかと考えています。

【大友 保険年金課長】

特定健診勧奨の受診券は5月25日に33,558件発送しましたが、それに多言語の案内を同封しました。当初の予算では、受診券とは別に発送することになっていましたが、健康福祉局が作成した受診券の同封資料に1ページ余白がありましたので、それをうまく利用して日英中3か国語での受診の呼びかけ、5か国語のQRコードを入れての特定健診の詳しい説明が載っているHPへの案内を載せることができました。これは南区独自の取組でございます。

【伊藤 議員】

朝、大通公園では、中国語で情報を共有していると思われる。外国籍の人はそういう所で自分たちの情報のやりとりをして満足しているようだ。だから町内会に入ってくれるのが難しい。多文化共生の地道な取組は、他の区の手本となるので、是非今後も続けてもらいたい。

点字フロアガイドは、何部作成してどのように配布するのか。

【野坂 総務課長】

点字フロアガイドについては、まだ詳細は詰まっていますが、窓口
に 100 部程度用意して、必要な人に渡すやり方を考えております。

【伊藤 議員】

せっかく作るのだから、必要な人に渡るようにしてほしい。また、今
後も聴覚障害や肢体不自由な方も区役所を利用するので、そういった視
点でも考えていただくよう要望しておきます。

【仁田 議員】

減災について、昼間には、中学生、高校生が力になるとの議論は市会
でもある。地域防災拠点の訓練でもそういったニーズがある。なかなか
容易ではないと思うが、せっかく地区担当の職員もいるのだから、そ
ういう視点を踏まえて推進していただけるといいと思うのだが。

【野坂 総務課長】

地域と学校をどう結び付けるのは、今までの経緯もありますので、な
かなかお答えしづらいのですが、色々と難しい部分もございます。今回
いただいたご意見を踏まえまして、検討していきたいと思えます。

【仁田 議員】

大変難しいと思うが、要援護者への支援の担い手として中学生、高
校生と上手く協働できるよう検討してもらいたい。

商店街朝市で「働く車」が展示されていたが、今後は、区役所にある
水素燃料自動車をさまざまなイベントなどでPR展示すべきだと思う。
例えば南まつりで展示・紹介は可能か。

【鈴木 地域振興課長】

水素燃料自動車につきましては、色々な機会を捉えてやっていきたいと思っておりますので、今後できるかどうか、検討したいと思っております。

【仁田 議員】

ぜひ、前向きに検討してほしい。

吉田新田 350 周年記念のイベントはどのようなことをするのか。

【黒田 区政推進課長】

広報よこはま南区版に特集コラムを掲載しているほか、9月には南区ガイドマップでPR、10月にはガイドボランティアと巡るウォーキングイベントを考えています。

【仁田 議員】

母子保健コーディネーターのモデル配置のスケジュールは、もうすでに明らかになっているのか。

【戸矢崎 こども家庭支援課長】

7月1日にコーディネーターが2名採用されます。約1か月の研修の後、8月に区に配置され、現状の分析をしてから夏以後にモデル事業を実施することを考えています。

【仁田 議員】

まさにモデルなので、南区の特性をよく踏まえたうえで、いろいろなモデル的に丁寧に進められるよう要望します。

【遊佐 議員】

区民スポーツ参加促進事業は、やはり触れなければいけない。オリンピックがあるので、一生に一度の機会として、是非ともやってもらいたいが、決意を聞かせてほしい。

【鈴木 地域振興課長】

先生からご意見いただいているということで引き継いでいます。今年度は、Y校と連携したオリンピックの講演会を1月に開催するほか、地

域のイベントではアスリート派遣講習会などを3回から4回開催する予定です。それから、「こども」「競う」がキーワードになると思いますので、こども家庭支援課で、幼稚園児も参加する「あつまれみなっちげんきっず」を行います。2020年に向けて、徐々に盛り上げていきたいと思っていますので、「こども」「競う」というような要素を踏まえたようなものが、31年度に何かできないか、今後関係者と詰めていきたいと考えております。

【遊佐 議員】

多文化共生の件だが、市は特定の人種や国籍に応じて活動を妨げるものではないというのが基本的な考えとしている。でも、個性ある区づくり推進費予算で外国人対策の事業をするのなら、区民の理解を求めなければならぬと思う。区民はなんとなく不公平感を持っているのではないかと。住民に説明するなら、一番わかりやすいのは、南吉田小学校の外国籍の子どもの対策。これは誰から見てもわかりやすいし、理解を得られやすいと思う。南区として、これからどのように住民の理解を求めていくのか非常に気になる。お考えがあれば教えてほしい。

【大木 区長】

寿東部地区について、日本人居住者と外国人居住者がお互いを理解できるようなステップをどのように作って行くかが重要と考えています。多文化共生のコミュニティづくりと単に言葉で言うのではなく、具体的にどうしていくのかということが大事だと思っています。

まず区役所としては、小さいことから1つずつ、できるところからやっっていこうというのが今の状況です。そういう中で、18区で初めて、みなみ多文化交流ラウンジに新たにコーディネーターを配置しました。その人が寿東部地区の定例会にも区役所とともに毎回参加してもらってもいいよと地元から話をもらっています。先生がおっしゃるような大きな話から見るとまだ小さな一歩ですが、地域と信頼関係をまず作っているところです。このようなことは簡単なことではなく、泉区のいちよう団地でも10年とか15年かかって、やっと子どもたちによるボランティアガードという見守り隊が作られました。区局連携促進事業でモデル事業としてコーディネーターが配置されたので、きちんと積み重ねていきたいと思っていますし、国際局や教育委員会とも課長級の連絡会議を設

けて、情報共有しています。

また、4月には南吉田小学校の校長に会いに行き情報交換させていただきました。地域の方々とも色々な生の声を交換し合うというようなステップを踏み出しましたので、一歩ずつ着実に進めて行きたいと思っています。

【遊佐 議員】

どのくらい外国人に支援をする必要があるのかは、また改めて議論したい。

【渋谷 議員】

従来から私は、市が行う事業は市内業者に、区が行う事業は区の業者に発注すべきだと言っているのだが、鶴巻橋トイレの調査委託や設計委託は、南区の業者と契約するのか。

【黒田 区政推進課長】

資源循環局の事業なので、市内中小企業優先で選定していると聞いています。

【渋谷 議員】

商店街朝市は、少し人出が少なくなったのではないかとと思っているのだが。同じことをやっていると言っているとマンネリ化してくると思うので、工夫してもらいたい。

【鈴木 地域振興課長】

確かに前回に比べて参加者が少なかった印象があるので、今後PR方法なども検討していきたいと思います。

備 考